

第3章 判定結果

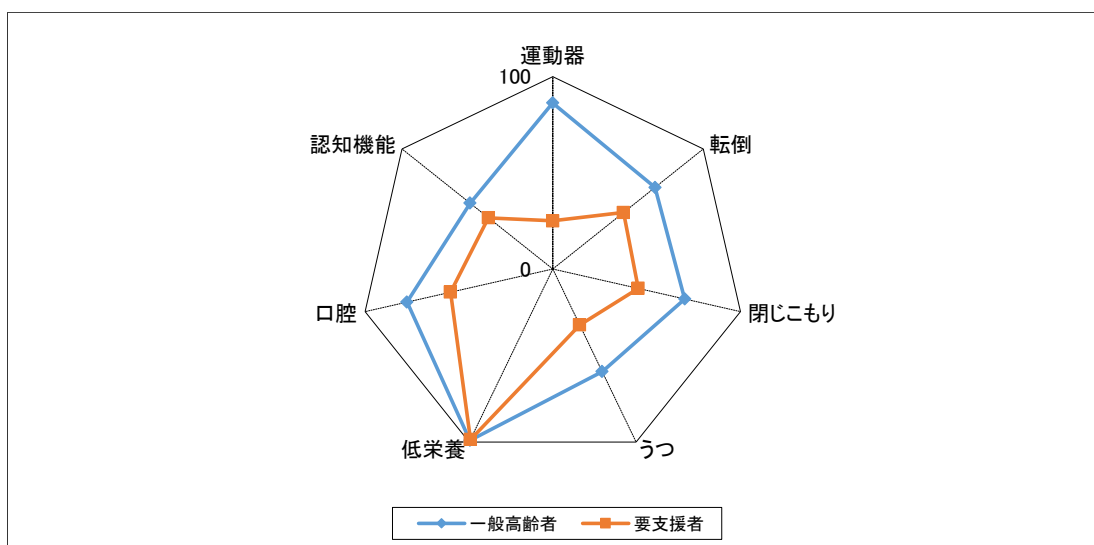
I 全体の概要

1 機能

(1) 項目別評価結果

生活機能の評価項目ごとに非該当者（リスクなし）の割合をみると、全ての項目で一般高齢者が要支援者を上回っており、「運動器」「うつ」「閉じこもり」「口腔」では、差が特に大きくなっている。

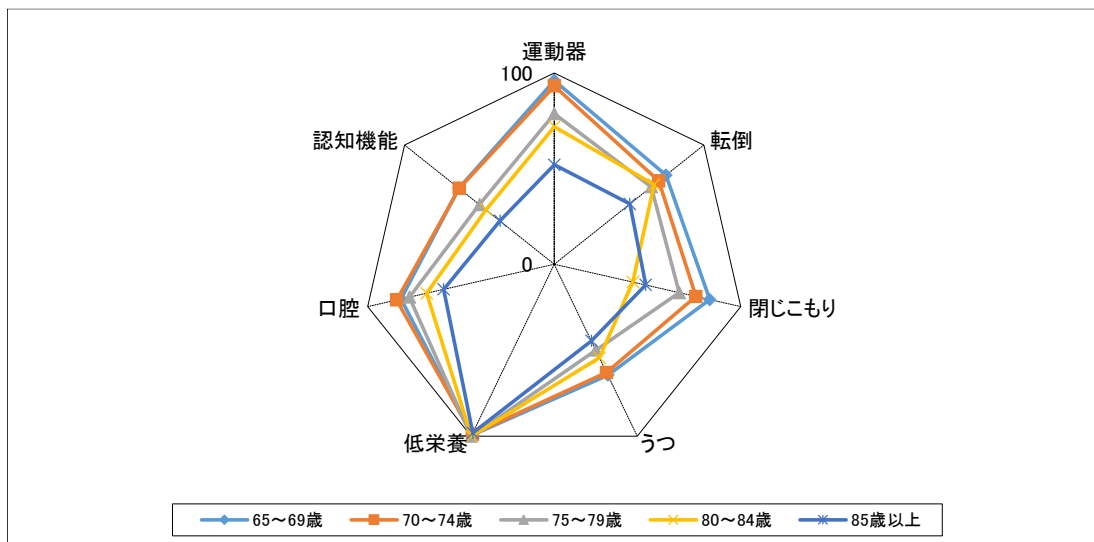
	全体	一般高齢者	要支援者
運動器	80.0	86.3	25.0
転倒	65.8	68.0	47.1
閉じこもり	68.5	70.4	45.6
うつ	57.0	59.3	32.4
低栄養	98.9	99.0	98.5
口腔	75.6	77.6	54.4
認知機能	53.2	54.9	42.6



第3章 判定結果

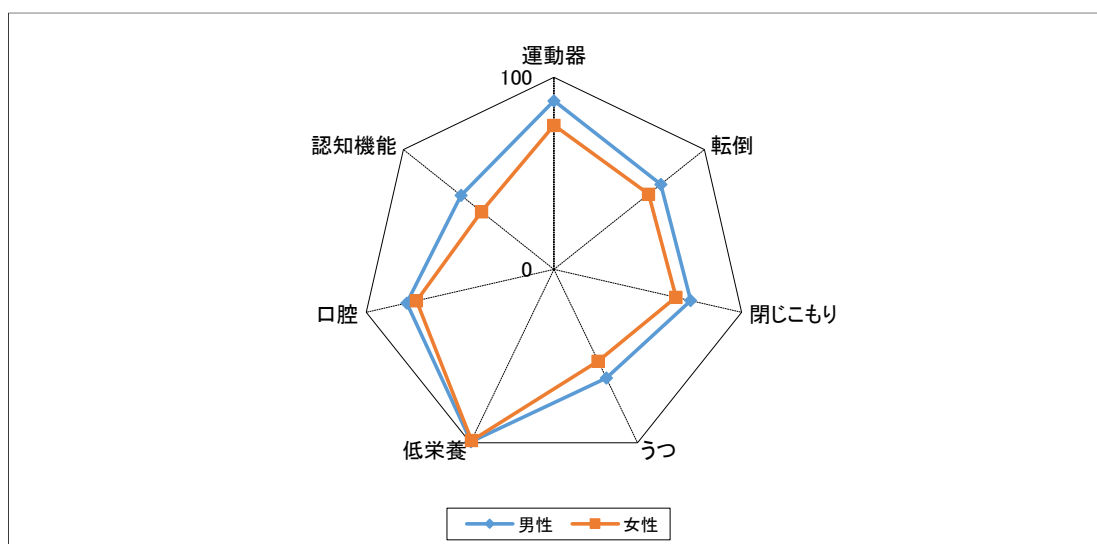
年齢による非該当者の割合をみると、ほとんどの項目において、年齢が高くなるほど、非該当者の割合が低くなっている。「運動器」「閉じこもり」「口腔」「認知機能」では、差が大きくなっている。

	全体	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上
運動器	80.0	96.0	93.2	78.7	71.9	52.0
転倒	65.8	74.6	69.8	64.9	66.7	50.5
閉じこもり	68.5	83.3	75.9	67.0	42.1	49.0
うつ	57.0	64.5	63.0	50.0	54.4	44.6
低栄養	98.9	99.3	98.8	100.0	100.0	98.0
口腔	75.6	82.2	84.6	77.7	68.4	59.3
認知機能	53.2	63.8	63.6	50.0	45.6	36.3



性別による非該当者の割合をみると、全ての項目において男性の方がリスクが少ないとした結果となっている。

	全体	男性	女性
運動器	80.0	87.7	74.9
転倒	65.8	71.0	62.9
閉じこもり	68.5	72.8	65.0
うつ	57.0	62.7	52.9
低栄養	98.9	99.4	98.7
口腔	75.6	78.4	73.2
認知機能	53.2	61.7	48.2



2 健康・疾病

(1) 既往歴

現在治療中または後遺症のある疾病の状況をみると、高血圧、心臓病、糖尿病、筋骨格の病気、目の病気等の既往率が高くなっている。

一般高齢者と要支援者の疾病の状況を比較すると、目の病気等において一般高齢者、心臓病、糖尿病、筋骨格の病気、耳の病気等において要支援者の既往率が高くなっている。

	全体	一般高齢者	要支援者
ない	16.8	19.8	0.0
高血圧	40.5	39.8	45.6
脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	3.1	2.5	8.8
心臓病	10.5	8.6	25.0
糖尿病	13.4	12.8	22.1
高脂血症(脂質異常)	7.6	8.0	7.4
呼吸器の病気(肺気腫・肺炎等)	5.1	4.9	11.8
胃腸・肝臓・胆のうの病気	7.7	8.0	10.3
腎臓・前立腺の病気	8.2	8.0	8.8
筋骨格の病気(骨粗しょう症等)	10.7	8.4	35.3
外傷(転倒・骨折等)	3.1	2.4	11.8
がん(悪性新生物)	3.9	3.2	10.3
血液・免疫の病気	1.1	1.0	2.9
うつ病	1.3	1.2	2.9
認知症(アルツハイマー病等)	1.2	1.0	1.5
パーキンソン病	0.5	0.3	2.9
目の病気	17.3	17.4	14.7
耳の病気	6.8	5.8	14.7
その他	6.8	7.7	4.4

年齢による疾病の状況をみると、高血圧、心臓病、筋骨格の病気、目の病気、耳の病気等の疾病で、高齢者の既往率が高くなっている。

	全体	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上
ない	16.8	26.1	22.8	7.4	7.0	6.9
高血圧	40.5	32.2	35.8	56.4	36.8	51.0
脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	3.1	0.7	3.1	6.4	7.0	3.4
心臓病	10.5	5.4	8.0	17.0	10.5	15.7
糖尿病	13.4	10.1	17.9	12.8	15.8	13.7
高脂血症(脂質異常)	7.6	10.5	6.8	7.4	8.8	3.9
呼吸器の病気(肺気腫・肺炎等)	5.1	2.9	5.6	7.4	10.5	5.9
胃腸・肝臓・胆のうの病気	7.7	6.5	8.0	12.8	10.5	6.4
腎臓・前立腺の病気	8.2	4.7	6.2	11.7	5.3	13.7
筋骨格の病気(骨粗しょう症等)	10.7	5.1	5.6	14.9	19.3	18.6
外傷(転倒・骨折等)	3.1	0.4	1.2	5.3	1.8	7.8
がん(悪性新生物)	3.9	3.3	4.3	1.1	3.5	6.4
血液・免疫の病気	1.1	1.4	0.6	1.1	1.8	1.0
うつ病	1.3	1.4	1.2	0.0	3.5	1.5
認知症(アルツハイマー病等)	1.2	0.0	0.0	1.1	1.8	2.9
パーキンソン病	0.5	0.0	0.0	2.1	0.0	1.0
目の病気	17.3	10.9	15.4	17.0	26.3	26.5
耳の病気	6.8	5.4	3.1	5.3	12.3	11.8
その他	6.8	9.8	5.6	11.7	1.8	3.9

第3章 判定結果

性別による疾病の状況をみると、糖尿病、腎臓・前立腺の病気等において、女性と比較して、男性の既往率が高くなっている。一方、筋骨格の病気、目の病気等において女性の既往率が高くなっている。

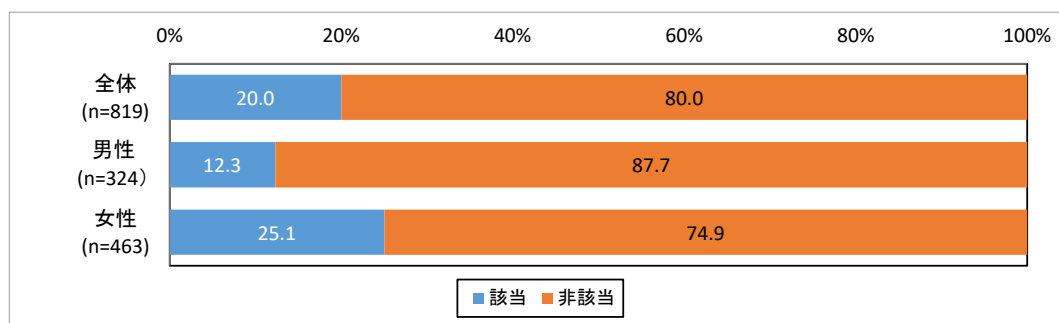
	全体	男性	女性
ない	16.8	17.3	17.1
高血圧	40.5	39.8	41.7
脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	3.1	3.7	2.6
心臓病	10.5	10.5	9.9
糖尿病	13.4	16.7	11.4
高脂血症(脂質異常)	7.6	5.6	9.3
呼吸器の病気(肺気腫・肺炎等)	5.1	4.6	5.8
胃腸・肝臓・胆のうの病気	7.7	9.6	6.7
腎臓・前立腺の病気	8.2	16.7	2.4
筋骨格の病気(骨粗しょう症等)	10.7	4.3	15.6
外傷(転倒・骨折等)	3.1	1.5	3.9
がん(悪性新生物)	3.9	4.6	3.5
血液・免疫の病気	1.1	0.0	1.9
うつ病	1.3	0.9	1.7
認知症(アルツハイマー病等)	1.2	0.9	1.3
パーキンソン病	0.5	0.6	0.4
目の病気	17.3	13.6	20.7
耳の病気	6.8	6.2	7.6
その他	6.8	4.3	9.1

II 項目別評価

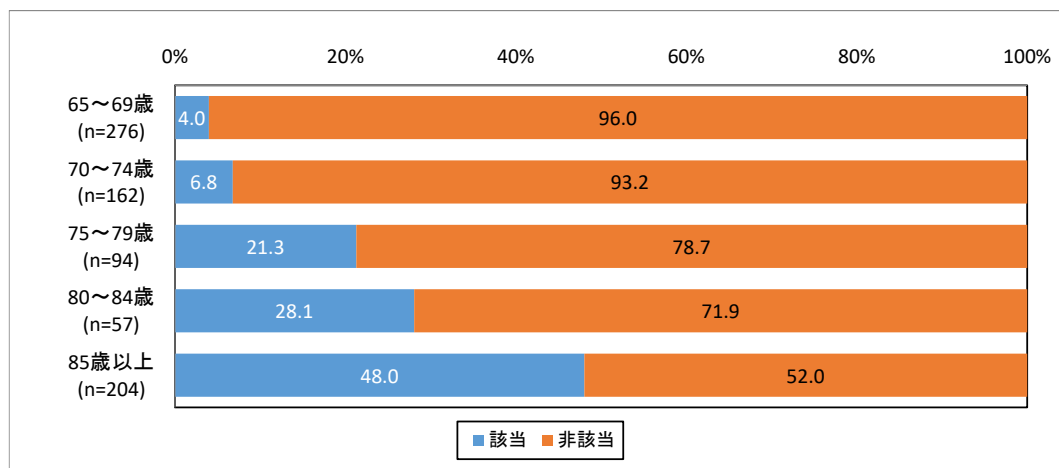
1 機能

(1) 運動器

運動器機能の低下に該当している人の割合は、男性で 12.3%、女性で 25.1%となっており、男性よりも女性の方が該当する割合が高くなっている。

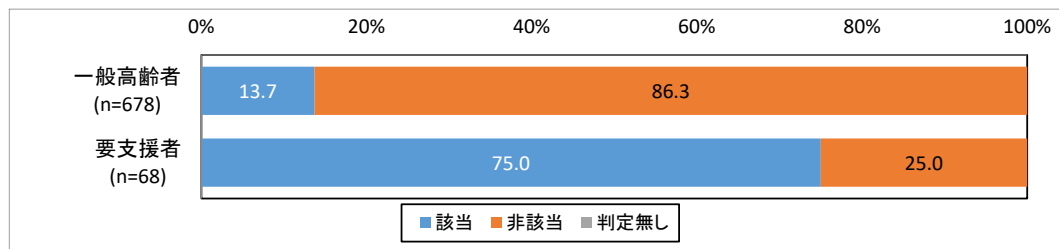


年齢別の運動器機能では、高齢になるほど該当する割合が高く、85歳以上で半数近くとなっている。



第3章 判定結果

認定該当状況による運動器機能の低下に該当している人の割合は、一般高齢者 13.7%、要支援者 75.0%となっており、要支援者の方が該当する割合が高くなっている。

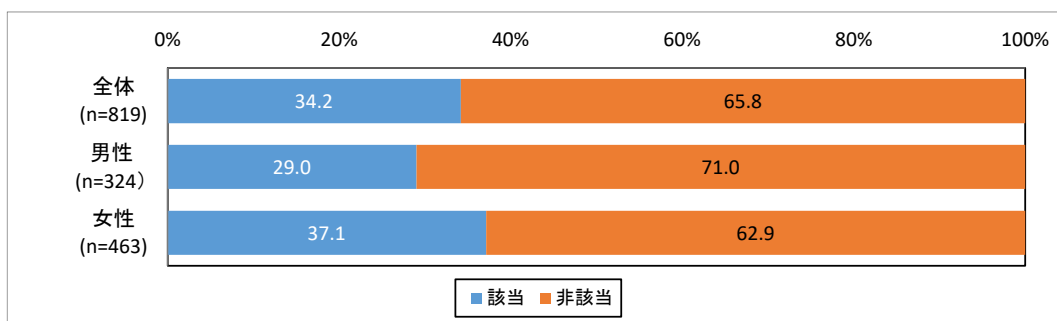


以下の設問のうち3問以上、該当する選択肢が回答された場合に、運動器機能が低下していると判定している。

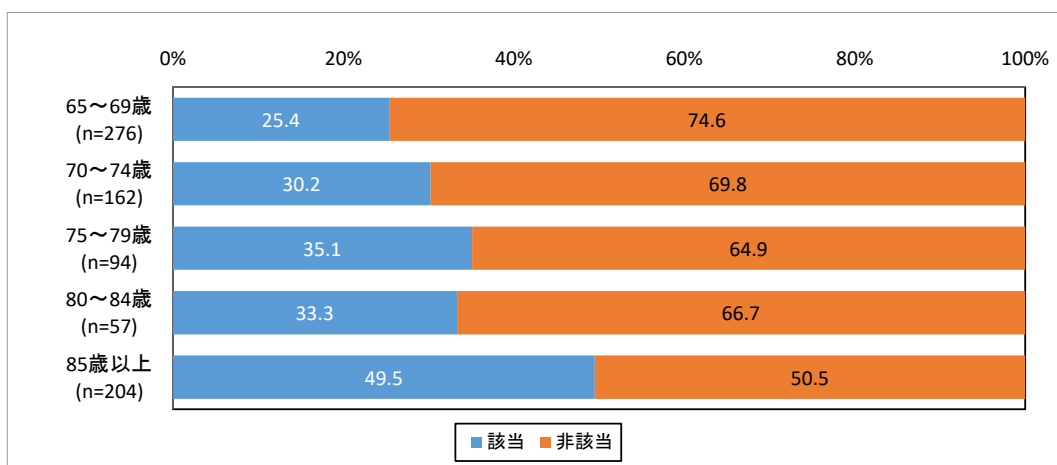
番号	設問内容	該当する選択肢
問 2(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	3. できない
問 2(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	3. できない
問 2(3)	15分位続けて歩いていますか	3. できない
問 2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある
問 2(5)	転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である

(2) 転倒

転倒リスクありに該当している人の割合は、男性 29.0%、女性 37.1%となっており、男性よりも女性の方が該当する割合が高くなっている。

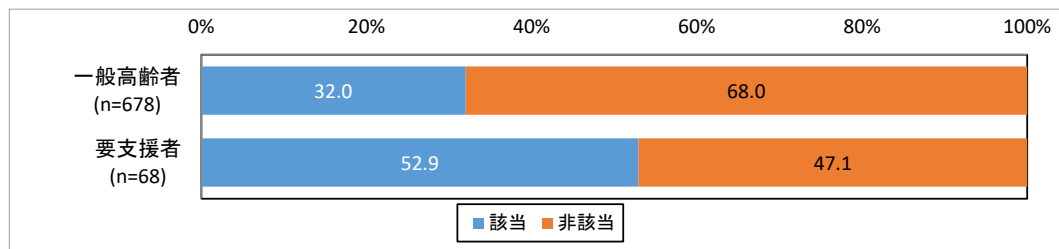


年齢別の転倒リスクをみると、高齢になるほど該当する割合が高く、85歳以上で半数近くとなっている。



第3章 判定結果

認定該当状況による転倒リスクありに該当している人の割合は、一般高齢者32.0%、要支援者52.9%となっており、要支援者の方が該当する割合が高くなっている。

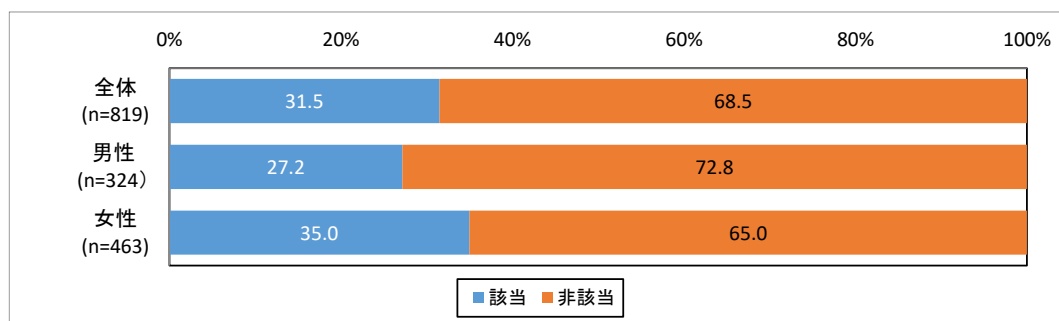


以下の設問で、該当する選択肢が回答された場合に、転倒リスクがあると判定している。

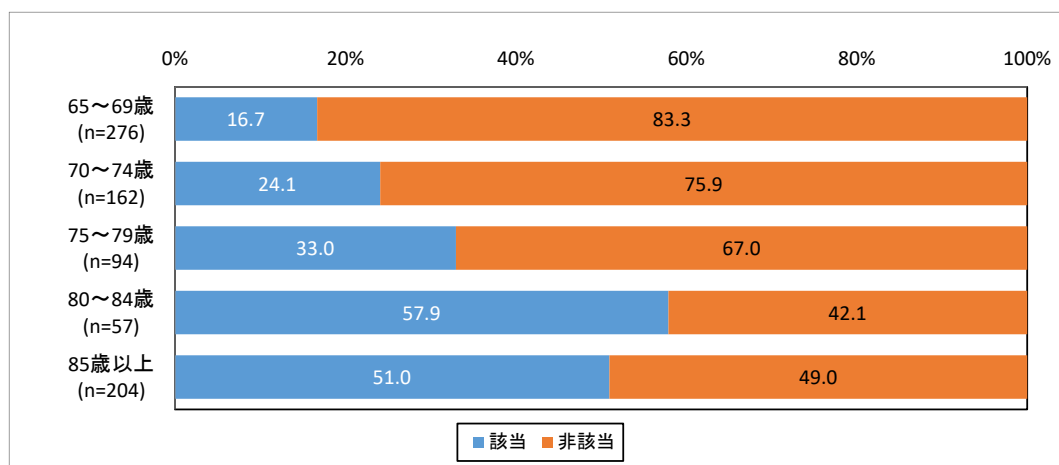
番号	設問内容	該当する選択肢
問2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある

(3) 閉じこもり

閉じこもり傾向ありに該当している人の割合は、男性 27.2%、女性 35.0%となっており、男性よりも女性の方が該当する割合が高くなっている。

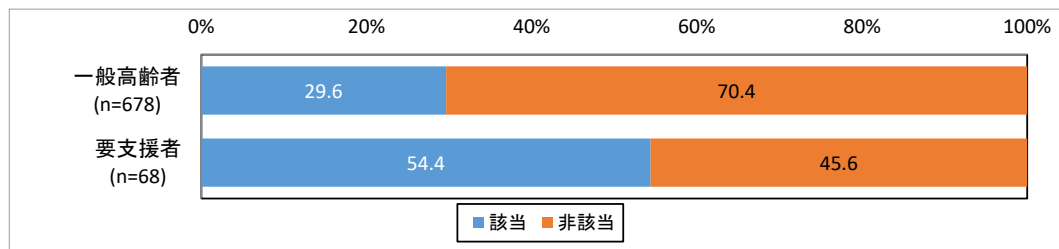


年齢別の閉じこもり傾向をみると、高齢になるほど該当する割合が高くなる傾向にあり、80歳以上で半数以上となっている。



第3章 判定結果

認定該当状況による閉じこもり傾向ありに該当している人の割合は、一般高齢者 29.6%、要支援者 54.4%となっており、要支援者の方が該当する割合が高くなっている。

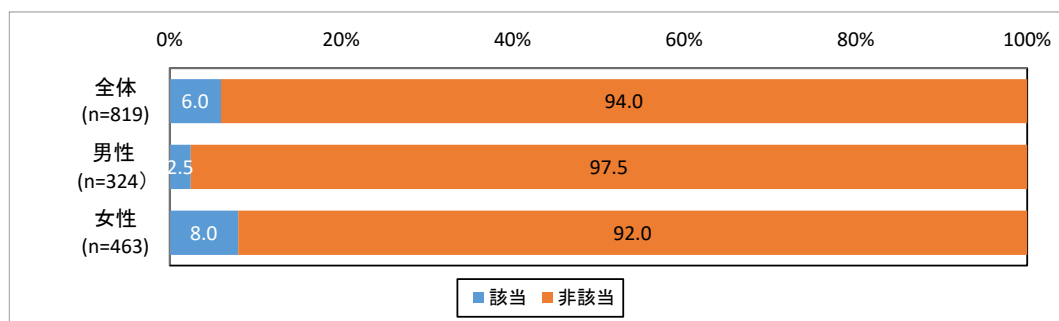


以下の設問で、該当する選択肢が回答された場合に、閉じこもり傾向にあると判定している。

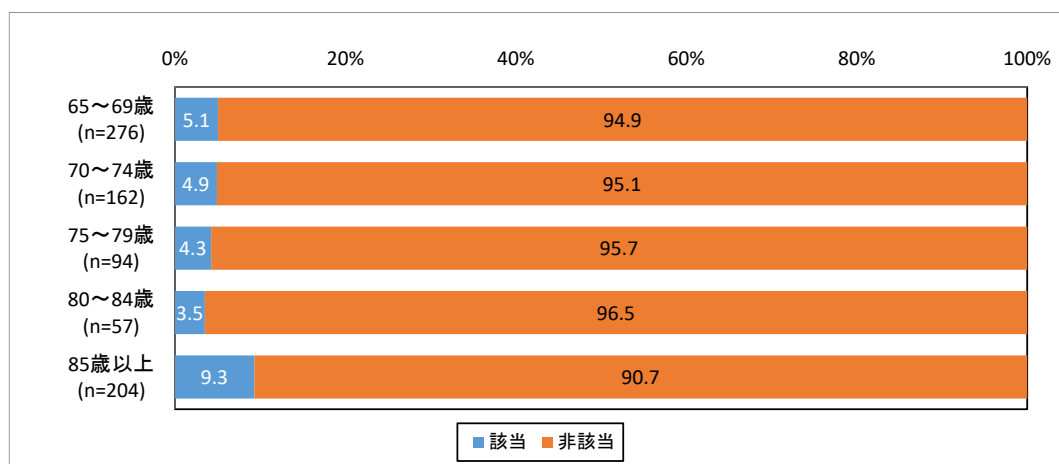
番号	設問内容	該当する選択肢
問 2(6)	週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない 2. 週1回

(4) 栄養改善

栄養改善リスクありに該当している人の割合は、男性 2.5%、女性 8.0%となっており、男性よりも女性の方が該当する割合が高くなっている。

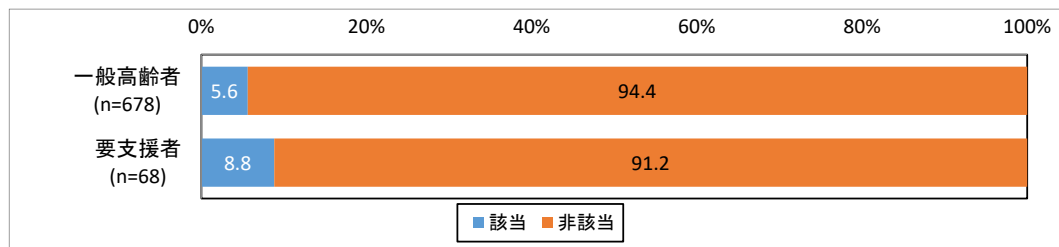


年齢別の栄養改善リスクをみると、年齢ごとにばらつきがあり 85 歳以上が 9.3%と最も高くなっている。



第3章 判定結果

認定該当状況による栄養改善リスクに該当している人の割合は、一般高齢者 5.6%、要支援者 8.8%となっており、要支援者の方が該当する割合が高くなっている。

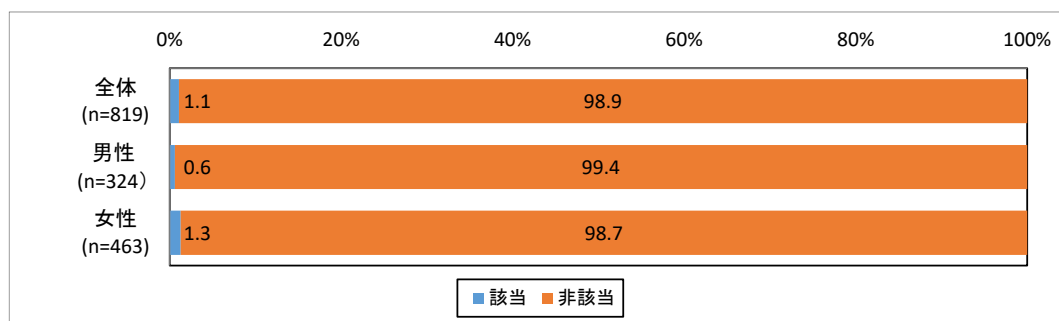


身長・体重から算出される BMI (体重 (kg) ÷ {身長 (m) × 身長 (m)}) が 18.5 以下の場合に栄養改善リスクがあると判定している。

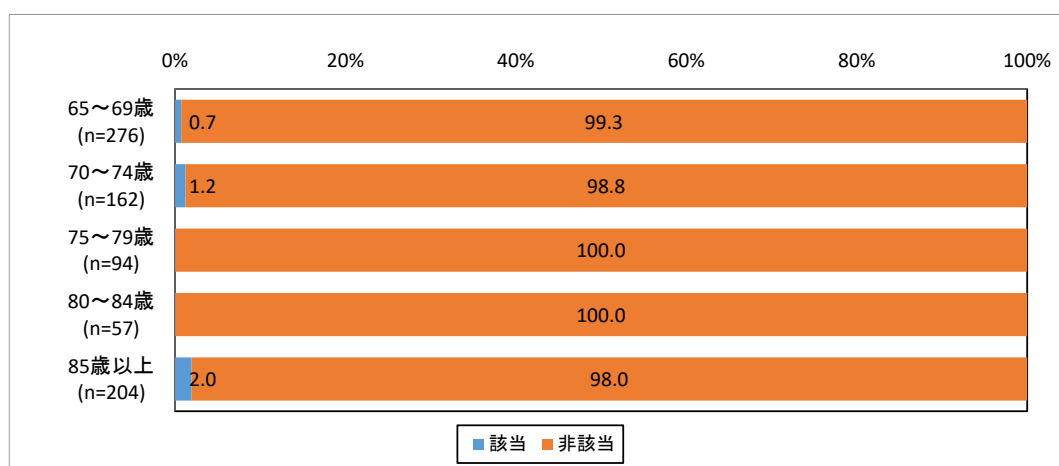
番号	設問内容	該当する選択肢
問 3(1)	身長・体重	() cm () kg

(5) 低栄養

低栄養状態に該当している人の割合は、男性 0.6%、女性 1.3%となっており、性別による差異は少なくなっている。

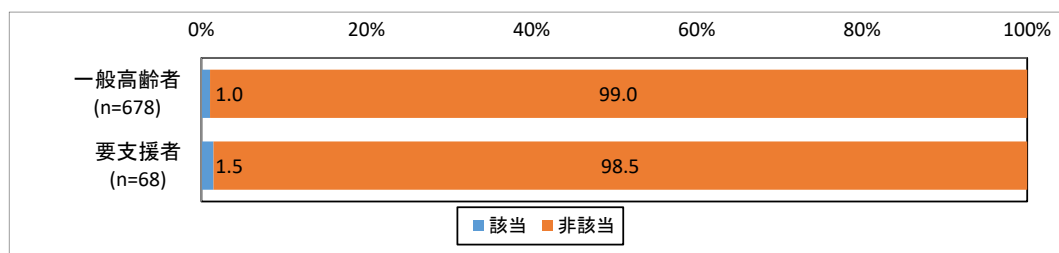


年齢別の低栄養状態では、年齢ごとにばらつきがあり、85歳以上が2.0%と最も高くなっている。



第3章 判定結果

認定該当状況による低栄養状態に該当している人の割合は、一般高齢者 1.0%、要支援者 1.5%となっており、認定該当状況による差異は少なくなっている。

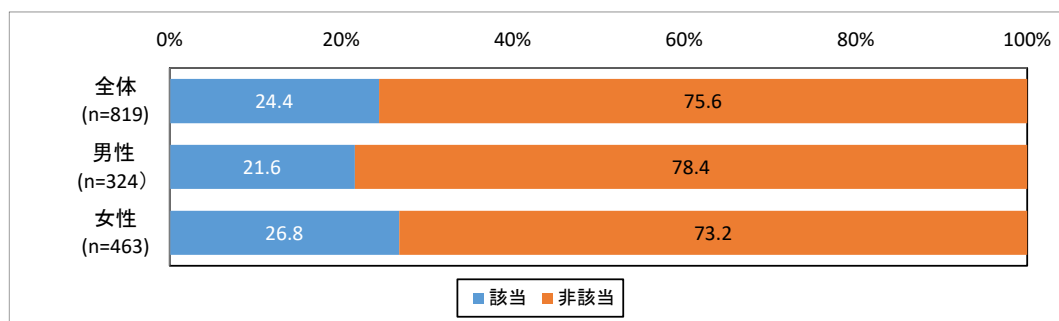


身長・体重から算出されるBMI (体重 (kg) ÷ {身長 (m) × 身長 (m)}) が 18.5 以下で、問3 (7) の設問において、該当する選択肢が回答された場合に低栄養状態にあると判定している。

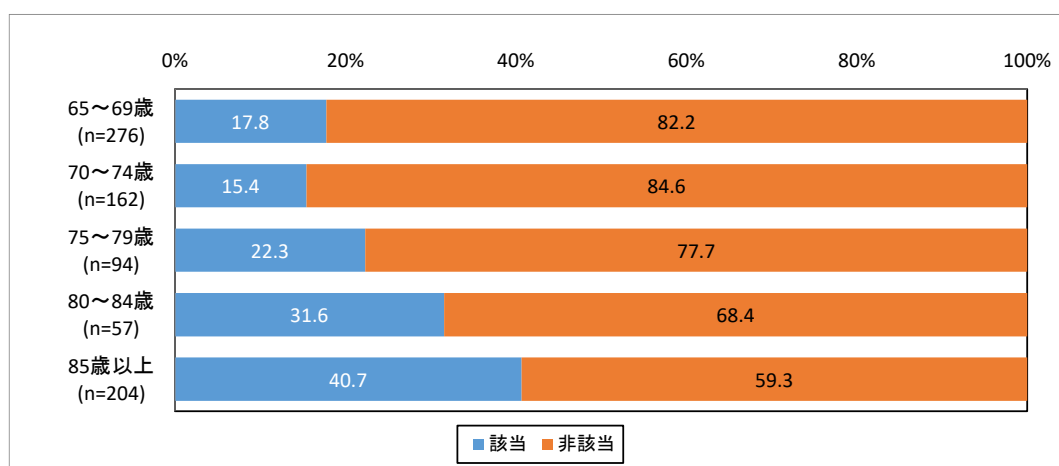
番号	設問内容	該当する選択肢
問3(1)	身長・体重	() cm () kg
問3(9)	特に何もしていないのに、6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1. はい

(6) 口腔

口腔機能の低下に該当している人の割合は、男性 21.6%、女性 26.8%となっており、男性よりも女性の方が該当する割合が高くなっている。

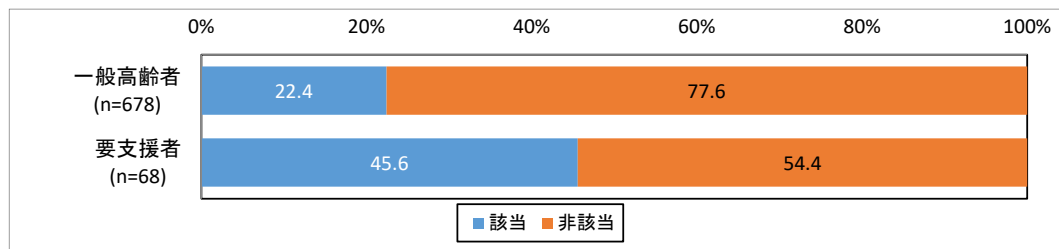


年齢別の口腔機能の低下をみると、高齢になるほど該当する割合が高くなる傾向にあり、85歳以上では4割以上となっている。



第3章 判定結果

認定該当状況による口腔機能の低下に該当している人の割合は、一般高齢者 22.4%、要支援者 45.6%となっており、要支援者の方が該当する割合が高くなっている。

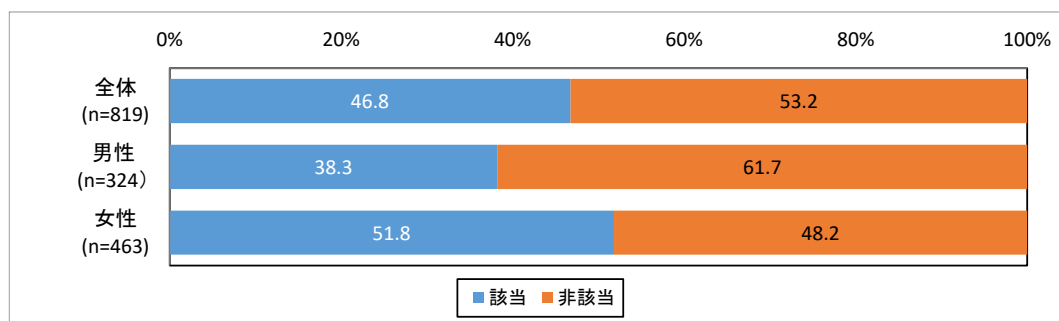


以下の設問のうち2問以上、該当する選択肢が回答された場合に、口腔機能が低下していると判定している。

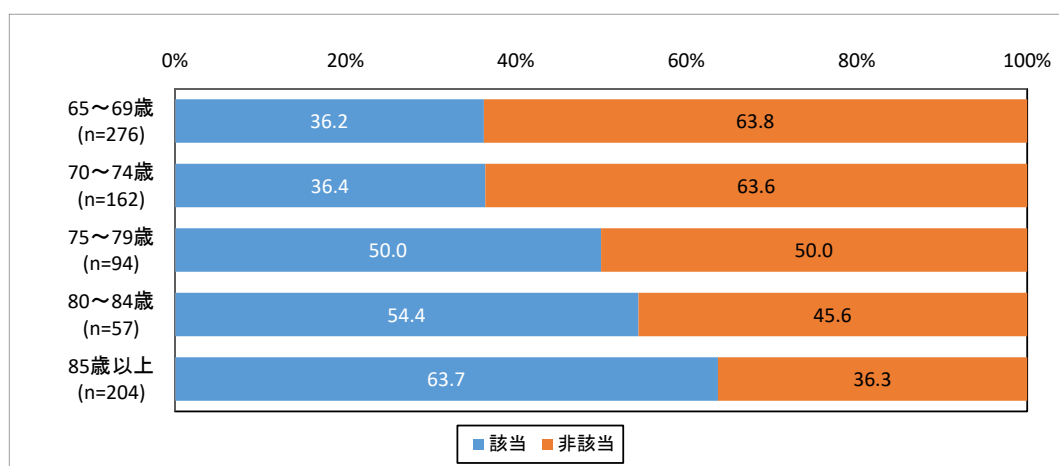
番号	設問内容	該当する選択肢
問3(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい
問3(3)	お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい
問3(4)	口の渇きが気になりますか	1. はい

(7) 認知機能

認知機能の低下に該当している人の割合は、男性 38.3%、女性 51.8%となっており、男性よりも女性の方が該当する割合が高くなっている。

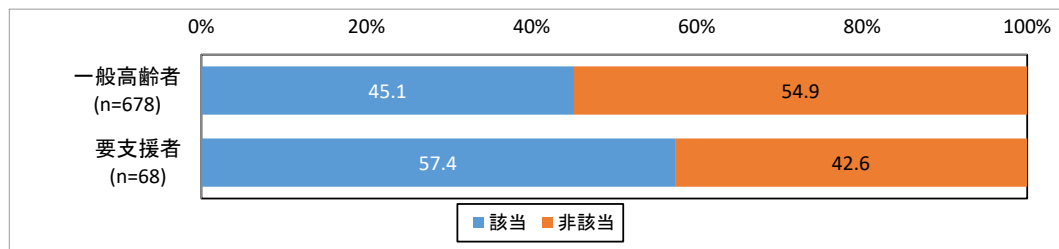


年齢別の認知機能の低下をみると、高齢になるほど該当する割合が高く、80歳以上では6割以上となっている。



第3章 判定結果

認定該当状況による認知機能の低下に該当している人の割合は、一般高齢者45.1%、要支援者57.4%となっており、要支援者の方が該当する割合が高くなっている。

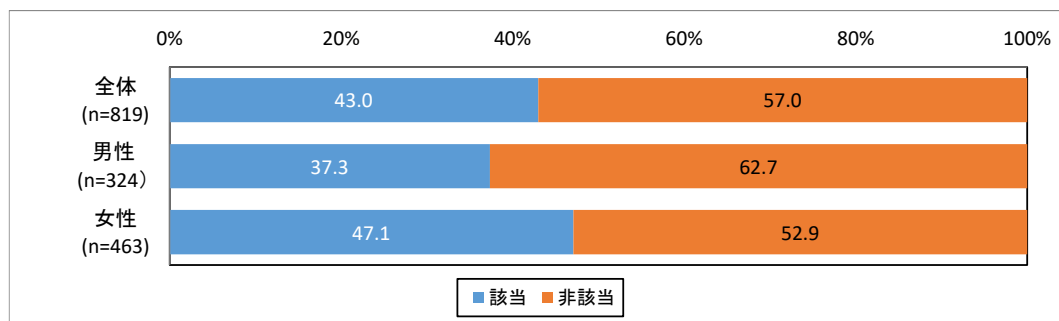


以下の設問で、該当する選択肢が回答された場合に、認知機能が低下していると判定している。

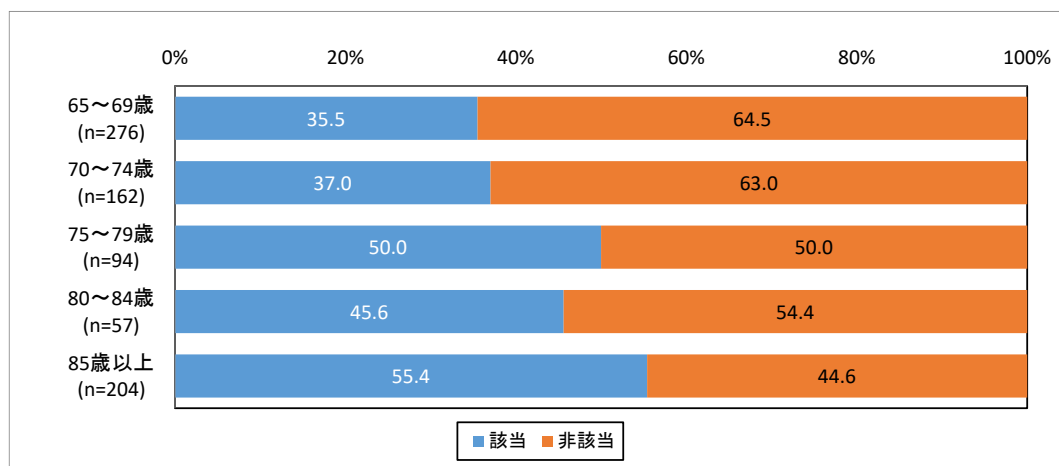
番号	設問内容	該当する選択肢
問4(1)	物忘れが多いと感じますか	1. はい

(8) うつ

うつ傾向ありに該当している人の割合は、男性 37.3%、女性 47.1%となっており、男性よりも女性の方が該当する割合が高くなっている。

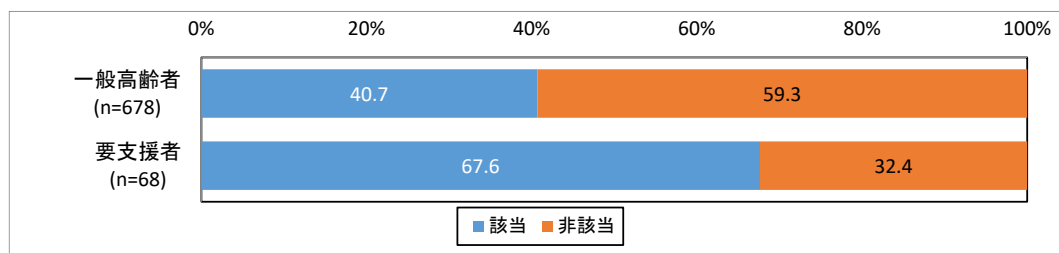


年齢別のうつ傾向をみると、年齢ごとにばらつきがあり 85 歳以上が 55.4%と最も高くなっている。



第3章 判定結果

認定該当状況によるうつ傾向ありに該当している人の割合は、一般高齢者 40.7%、要支援者 67.6%となっており、要支援者の方が該当する割合が高くなっている。

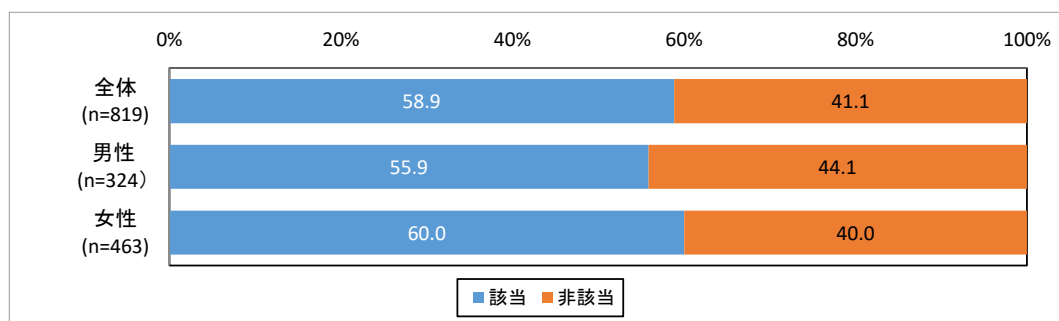


以下の設問でいずれか1問でも、該当する選択肢が回答された場合に、うつ傾向にあると判定している。

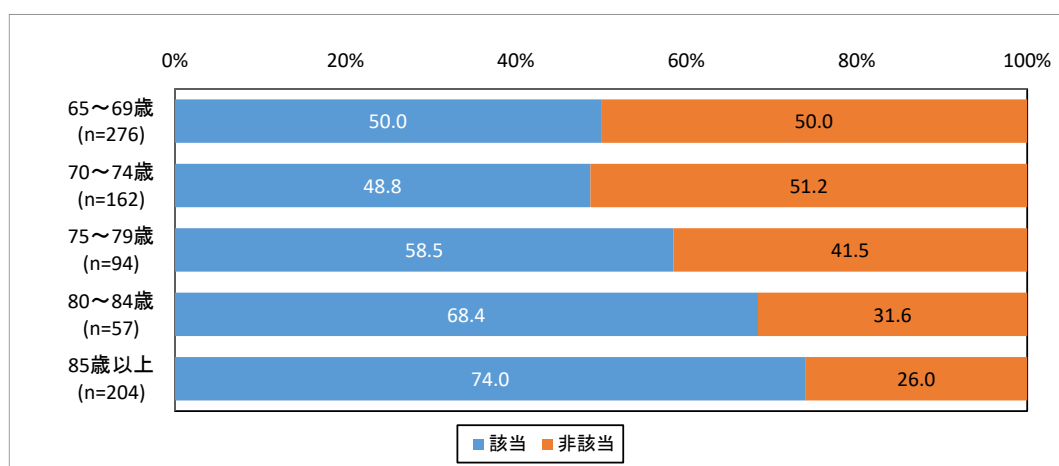
番号	設問内容	該当する選択肢
問7(3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい
問7(4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい

(9) 認知機能の低下（3設問での判定）

認知機能の低下（3設問）に該当している人の割合は、男性 55.9%、女性 60.0% となっており、男性よりも女性の方が該当する割合が高くなっている。

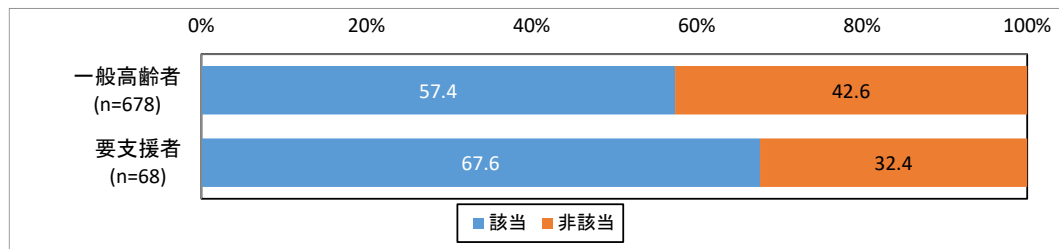


年齢別の認知機能の低下（3設問）をみると、高齢になるほど該当する割合が高くなる傾向にあり、85歳以上では7割以上となっている。



第3章 判定結果

認定該当状況による認知機能の低下（3設問）に該当している人の割合は、一般高齢者 57.4%、要支援者 67.6%となっており、要支援者の方が該当する割合が高くなっている。



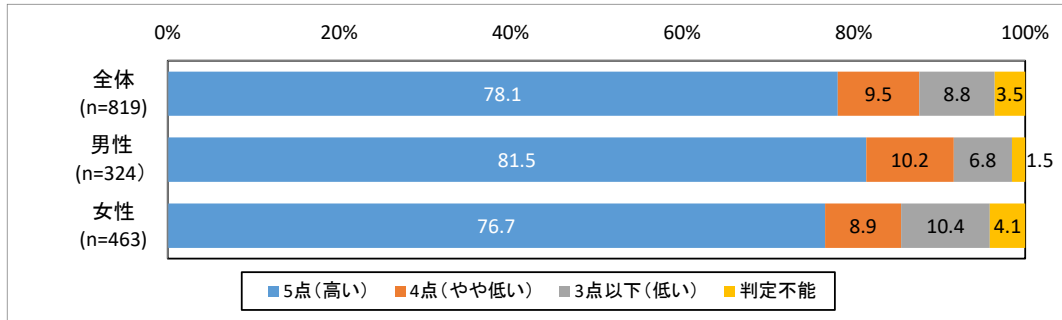
以下の設問でいずれか1問でも、該当する選択肢が回答された場合に、認知機能の低下があると判定している。

番号	設問内容	該当する選択肢
問4(1)	物忘れが多いと感じますか	1. はい
問4(2)	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	2. いいえ
問4(3)	今日が何月何日かわからない時がありますか	1. はい

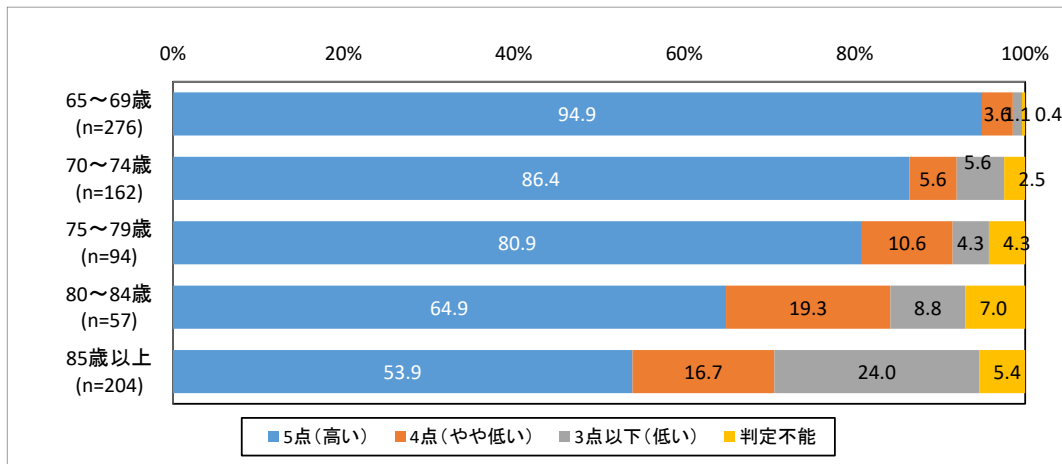
2 日常生活

(1) IADL (手段的日常生活動作能力)

IADLにおいて「高い」に該当している人の割合は、男性 81.5%、女性 76.7% となっており、女性よりも男性の方が該当する割合が高くなっている。

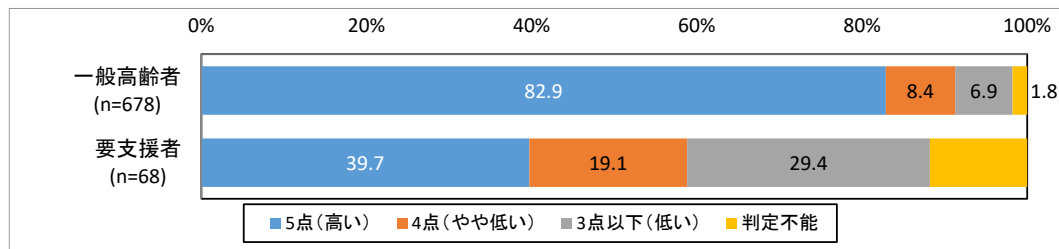


年齢別の IADL では、高齢になるほど「高い」に該当している人の割合が低くなっている。



第3章 判定結果

認定該当状況による IADLにおいて「高い」に該当している人の割合は、一般高齢者 82.9%、要支援者 39.7%となっており、一般高齢者の方が該当する割合が高くなっている。

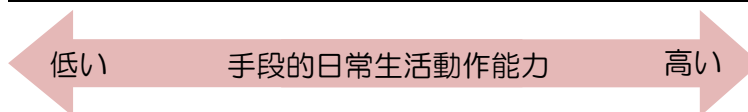


以下の設問で、該当する選択肢が回答された場合に各1点とし、その合計点数で評価を行った。

番号	設問内容	該当する選択肢
問4(4)	バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）	「1. できるし、している」 または 「2. できるけどしていない」 に1点
問4(5)	自分で食品・日用品の買物をしていますか	
問4(6)	自分で食事の用意をしていますか	
問4(7)	自分で請求書の支払いをしていますか	
問4(8)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	

【合計点数 判定基準】

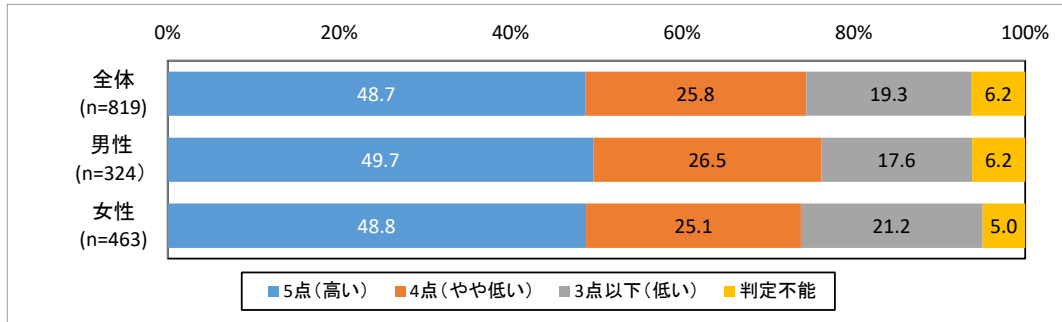
0～3点	4点	5点
低い	やや低い	高い



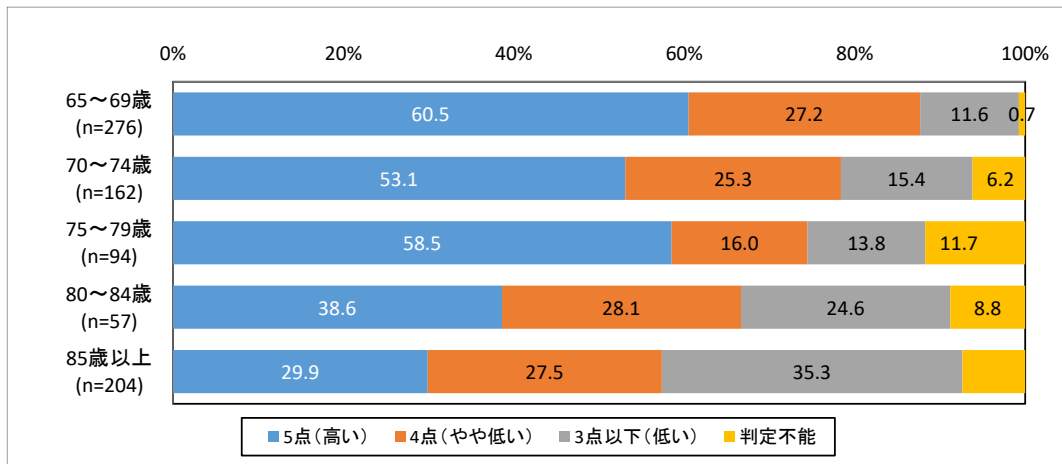
3 社会参加

(1) 知的能動性

知的能動性において「高い」に該当している人の割合は、男性 49.7%、女性 48.8% となっており、性別による差異は少なくなっている。

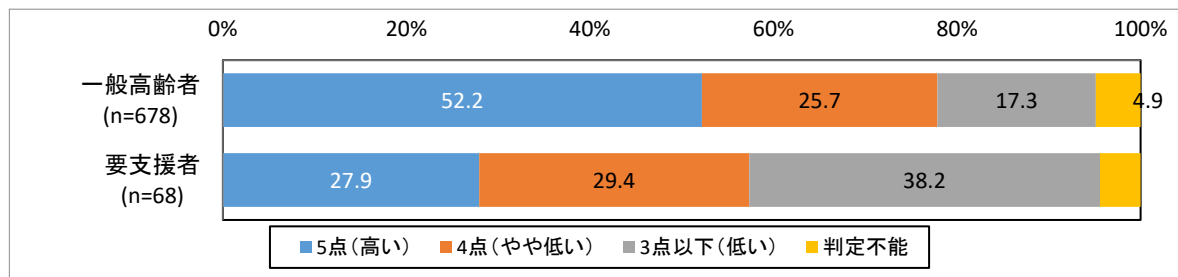


年齢別の知的能動性をみると、「高い」に該当している人の割合では年齢ごとにはばらつきがあり 65～69 歳が 60.5%と最も高くなっている。



第3章 判定結果

認定該当状況による知的能動性において「高い」に該当している人の割合は、一般高齢者 52.2%、要支援者 27.9%となっており、一般高齢者の方が該当する割合が高くなっている。

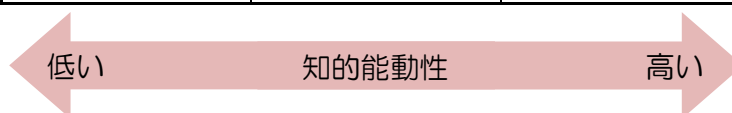


以下の設問で、該当する選択肢が回答された場合に各1点とし、その合計点数で評価を行った。

番号	設問内容	該当する選択肢
問 4(9)	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか	「1. はい」に1点
問 4(10)	新聞を読んでいますか	
問 4(11)	本や雑誌を読んでいますか	
問 4(12)	健康についての記事や番組に関心がありますか	

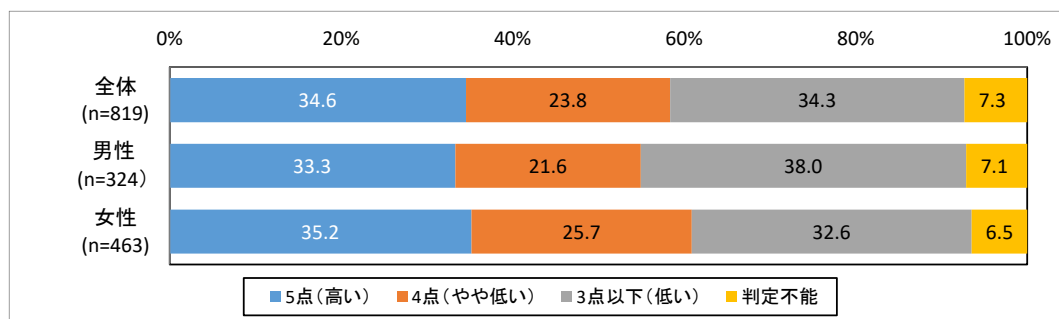
【合計点数 判定基準】

0～2点	3点	4点
低い	やや低い	高い

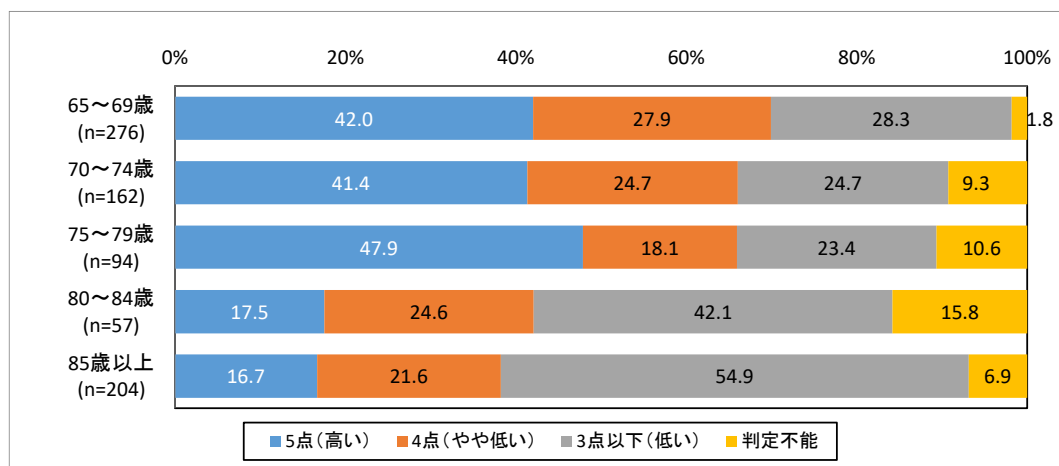


(2) 社会的役割

社会的役割において「高い」に該当している人の割合は、男性 33.3%、女性 35.2% となっており、男性よりも女性の方が該当する割合が高くなっている。

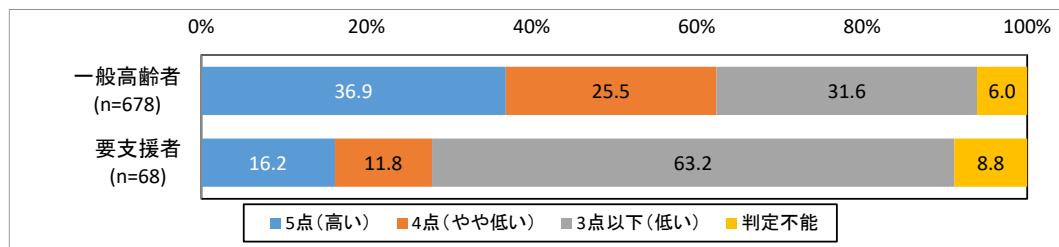


年齢別の社会的役割をみると、年齢ごとにばらつきがあり 75～79 歳が 47.9% と最も高くなっている。



第3章 判定結果

認定該当状況による社会的役割において「高い」に該当している人の割合は、一般高齢者 36.9%、要支援者 16.2%となっており、一般高齢者の方が該当する割合が高くなっている。

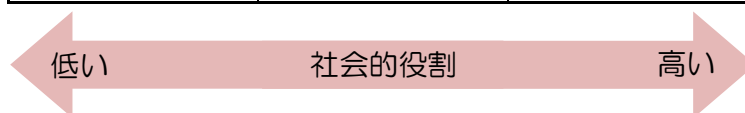


以下の設問で、該当する選択肢が回答された場合に各1点とし、その合計点数で評価を行った。

番号	設問内容	該当する選択肢
問 4(13)	友人の家を訪ねていますか	「1. はい」に1点
問 4(14)	家族や友人の相談にのっていますか	
問 4(15)	病人を見舞うことができますか	
問 4(16)	若い人に自分から話しかけることがありますか	

【合計点数 判定基準】

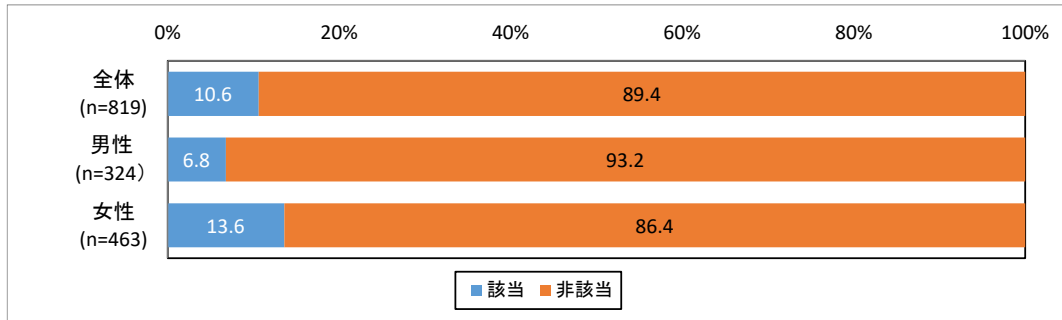
0～2点	3点	4点
低い	やや低い	高い



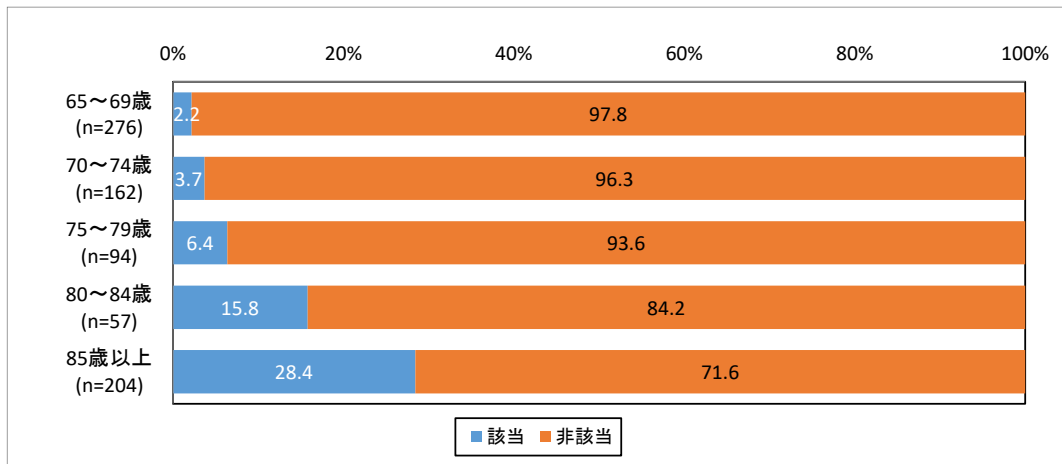
4 生活機能総合評価

(1) 虚弱のリスク

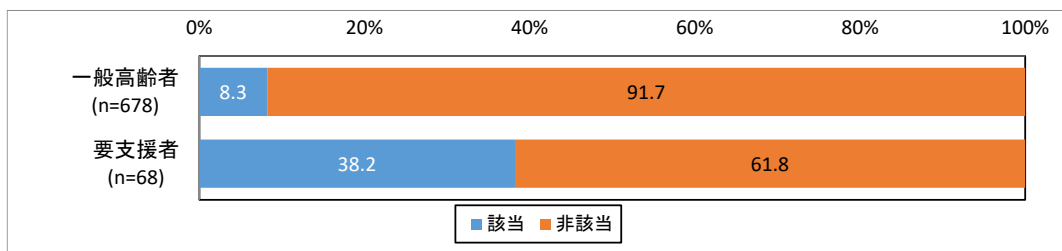
虚弱リスクありに該当している人の割合は、男性 6.8%、女性 13.6%となっており、男性よりも女性の方が該当する割合が高くなっている。



年齢別の虚弱リスクをみると、高齢になるほど該当する割合が高く、85歳以上では3割近くとなっている。



認定該当状況による虚弱リスクありに該当している人の割合は、一般高齢者 8.3%、要支援者 38.2%となっており、要支援者の方が該当する割合が高くなっている。



第3章 判定結果

以下の設問のうち10問以上、該当する選択肢が回答された場合に、虚弱のリスクありと判定している。

番号	設問内容	該当する選択肢
問4(4)	バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）	3. できない
問4(5)	自分で食品・日用品の買物をしていますか	3. できない
問4(8)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	3. できない
問4(13)	友人の家を訪ねていますか	2. いいえ
問4(14)	家族や友人の相談にのっていますか	2. いいえ
問2(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	3. できない
問2(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	3. できない
問2(3)	15分位続けて歩いていますか	3. できない
問2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある
問2(5)	転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である
問3(9)	特に何もしていないのに、6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1. はい
問3(1)	身長・体重によりBMIを算出	BMIが18.5以下
問3(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい
問3(3)	お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい
問3(4)	口の渇きが気になりますか	1. はい
問2(6)	週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない
問2(7)	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1. とても減っている 2. 減っている
問4(1)	物忘れが多いと感じますか	1. はい
問4(2)	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	2. いいえ
問4(3)	今日が何月何日かわからない時がありますか	1. はい